

NEWSLETTER

ミャンマー企業訪問

太陽旅行社 福島様 タンダー様



「ミャンマーってどんな国なの!？」と質問をよくお受けします。まだミャンマーについてイメージを持ち合わせていない人も多いように思います。感心のある方であれば黄金に輝くパゴダやお坊さんの托鉢の風景、アウンサンスーチーさんを思い浮かべる方もいるでしょう。

実は、ミャンマーにはまだまだ知られざる魅力があります。長年外国に対して閉ざされていたからこそ残された秘境がたくさんあるのです。そんなミャンマーの秘境をご案内する旅行社「太陽旅行社」福島氏へインタビューを行いました。

Qミャンマーにきたきっかけを教えてください

1998年に初めてミャンマーへ来ました。バイトをしてお金が貯まると旅に出る、いわゆるバックパッカーを当時していました。それでミャンマーの魅力に目覚めてしまって気がつけばミャンマーにばかり来るようになりました。

2004年に旅行会社を立ち上げ、その後2006年から現地で経営に参加したのですが、その頃から物価が不自然に上がり、この国には不穏な空気が徐々に漂ってきていたんです。その後お坊さんのデモがあり、軍政がそれを弾圧、市民の不満も高まり国の状況がどんどん悪くなりました。外国人旅行者が当然激減してしまい、会社を離れて日本へ帰国しました。

Q民政移管後に再度ミャンマーで旅行会社を立ち上げたのですか?

ミャンマーに来ることは念願でした。それでも一度旅行会社をやろうと思いました。妻がシャン州の出身で二人で経営しています。

Q他社と差別化した独特のツアーを扱っていますか?

妻の出身地であるシャン州カローなど自然豊かな土地でのトレッキングをご案内しています。2泊3日のツアー、または日にちに余裕があれば3泊4日のツアーもあり、カローからインレーへ抜ける

Taiyo Travels&Tours Co., Ltd.
会社設立:2014年6月
代表者: Thandar Aung
ミャンマー観光省認可番号:KHA-2493
所在地:No.7,6th Floor A,Sisone St,Sanchaung Township,Yangon.
電話番号:01-502176
営業日/時間 月曜日から金曜日
9:00~18:00 (ミャンマー時間)
11:30~20:30 (日本時間)
<http://www.taiyo-mm.com/>

トレッキングができます。ミャンマーでトレッキングのイメージはまだないかもしれませんが自然が豊かで最高です。

Qわたしもトレッキングが好きで興味があります。また、教育ツアーにも注力されているのですか?

トレッキングともうひとつ力を入れているのが教育ツアーです。学生向けのスタディーツアーで現地の人々と交流できるプランは魅力的です。

Q若い学生さんたちにミャンマーを知ってもらい、そこで何かを感じてもらえたらうれしいですね。

はい、「南シャン州交流会」という農村支援のNGOも立ち上げました。農業体験・植林などもスタディーツアーに入れることができます。ビジネスのお客様も多いですが、視察ツアーなどもアレンジしていますし、駐在者向けのプランもご用意します。農業関係や食品関係のお客様向けにはシャン州でのコネクションを生かしてアドバイスやアレンジメントができます。お気軽にご相談ください。

Qこれまで苦労したことは何ですか?

わたしはミャンマーが好きでミャンマーに来ることが念願だったので、ミャンマーに来られなかった時期がもっとも辛い時期でした。ですので、今は現地で旅行会社を持って幸せです。大変なのはこれからで、スタッフを教育したり、ツアーの内容をもっと練って他社と差別化していきたいので、課題はたくさんあります。

ミャンマーへの愛(含む奥様への愛)を福島氏から浴びて、改めてミャンマーの魅力に気づかされました。ビジネス視察のご相談やアレンジもお受けしてまいりますので、長年ミャンマーに関わられてきた福島氏へぜひご連絡を!

ミャンマー会計税務 トピック

飲食店のレシートへ「商業税納税済み」ステッカーの貼り付け義務化について話題になっています。

このステッカーは飲食店の顧客が商業税を納付したことの証拠となるもので11月1日より運用が開始されています。既存の飲食店向けには10月末日までにステッカーの配布は終了しています。新規の飲食店の開業もごございますので、新規の場合はどのように手続きすれば良いか確認を行ったところ、通常商業税の登録手続きを行い、その後1度目の納税を行う際に税務署へ申し出ることによってステッカーの交付を受けられるとのことでした。

(最初からステッカーの交付を受けられないというのは疑問が残りますが)既存の飲食店であっても、商業税納税の際にレターにて申し出を行えば上記のフローでステッカーの交付は受けられるとのことでした。



Photo by Nakayama